

インフルエンザウイルス不活性化試験

1 依頼者

ハーツリッチ合同会社

2 検 体

光触媒NFE2（室内用）塗布板

3 試験概要

検体にインフルエンザウイルスのウイルス液を滴下（以下「試料」という。）し、白色蛍光灯照射下で所定時間保存した後、ウイルス感染価を測定した。また、あらかじめ予備試験を行い、ウイルス感染価の測定方法について検討した。

4 試験結果

1) 予備試験（中和条件の確認）

試料を細胞維持培地で洗い出すことにより、検体の影響を受けずにウイルス感染価が測定できることを確認した（表-3 中和条件を参照）。

2) ウイルス感染価の測定

結果を表-1に示した。また、使用細胞及び培地を表-2、試験条件を表-3に示した。

表-1 試料洗い出し液のウイルス感染価測定結果

試験 ウイルス	対 象	log TCID ₅₀ /mL	
		開始時	4時間後
インフルエンザ ウイルス	検 体	—	<0.5
	対照（ガラス板）	5.7	5.6

TCID₅₀ : median tissue culture infectious dose, 50 %組織培養感染量

ウイルス液 : 培養液を精製水で10倍に希釈

光照射条件 : 1700 Lx

保存温度 : 室温

<0.5 : 検出せず